

環境学研究科 指導計画

1.研究科概要	<p>環境学研究科の理念・目的</p> <p>21世紀の人類社会が迎える‘地球環境の資源の有限性と環境容量の制約’に対応する社会システムの実現という大きな変革を長期に展望したとき、人類社会は20世紀に実現したエネルギー・資源集約型社会から、環境・資源の制約を内部化した経済活動による労働・知識集約型社会を実現した、いわゆる「持続可能な社会」に移行していかなければならない。このような移行を実現するためには、環境・経済・社会にわたる幅広い視野のもと、従来の政策や対策を超えた革新的な政策・対策が必要である。その裏付けとなる多分野にわたる社会経済の現状分析と政策・対策手段についての不断の研究活動が求められている。本研究科は、そのような時代の要求に応え、持続可能な社会づくりを通じ世界の幸せに貢献していくことを目的としている。</p> <p>環境学研究科の専門家像</p> <p>環境学研究科においては、持続可能な社会の実現を目指し、社会科学的アプローチと工学をはじめとする自然科学的アプローチの双方から、大きな変革を担う人材（「環境人材」）の育成を目指している。具体的には、①環境システムに関する幅広い知識を有し、地球規模から国、地方公共団体、企業、家庭に至るまでの環境負荷を総合的に低減できる能力を有する、環境マネジメントの専門家、②エネルギーを含むモノやサービスづくりにかかる環境システム設計や、生産から使用、廃棄、リサイクルまでの環境負荷の低減を実現できる能力を有する、エコプロダクツの専門家、③持続可能な社会の構築に向けた、持続可能性低下の現状分析、持続可能な発展の条件やそれを踏まえた対応のありかたなど、政策面も含めた基礎研究、応用研究に関わる研究者の育成である。</p>			
2.取得可能学位	修士（環境学）Master of Arts in Environmental Sciences 博士（環境学）Doctor of Philosophy in Environmental Sciences			
3-1：指導計画（修士課程）				
コース	1年制コース	2年制コース		
審査種別：	修士論文（特定課題研究演習）			
1年次	4月（入学）	指導教員の確認（原則、希望する指導教員への出願前の連絡をもとに、面接の上、指導教員を決定）以後、指導教員による研究計画書に対する指導を行う		
	4月中旬 ～5月上旬	指導教員・題目届の提出（MUSCAT 通知） 学生→指導教員へ提出		
	9月	修士論文（特定課題研究演習）中間報告会へ出席		
	11月	様式、論文審査願の確認 （MUSCAT 通知）	修士論文の作成に資する レポート作成方法などの指導	
		主査・副査の決定（研究科委員会）		
	1月	学位（修士）論文の提出		
	～2月中旬	最終試験		
～2月下旬	公聴会			
3月	修了判定（研究科委員会）	修士論文公聴会への出席 指導教員のもとで個別研究指導		

	3月（修了式）	学位記交付	
2年次	4月中旬 ～5月上旬		指導教員・題目届の提出 (MUSCAT 通知) 学生→指導教員へ提出
			論文執筆開始
	9月		修士論文（特定課題研究演習） 中間報告（コメントとりまとめ及び フィードバック）
	11月		様式、論文審査願の確認 (MUSCAT 通知)
			主査・副査の決定（研究科委員会）
	1月		修士論文（特定課題研究演習）の提出
	～2月中旬		最終試験
	～2月下旬		公聴会
	3月		修了判定（研究科委員会）
3月（修了式）		学位記交付	

3-2：指導計画（博士後期課程）

	審査種別：	博士論文（特殊研究（研究指導））
1,2年次	4月（入学）	指導教員の確認（原則、希望する指導教員への出願前の連絡をもとに、面接の上、指導教員を決定）以後、指導教員による研究計画書に対する指導を行う
	4月中旬 ～5月上旬	指導教員・研究課題及び研究計画書の提出（MUSCAT 通知） 学生→指導教員へ提出
	9月	中間発表
	9月～2月	博士論文の作成に資するレポート作成方法などの指導
	～2月下旬	博士論文公聴会への出席 (2, 3年生発表の公聴)
3年次	4月中旬 ～5月上旬	博士論文提出予定の届出（MUSCAT 通知）
	8月	博士論文提出案内 様式・提出日時等（MUSCAT 通知）
	10月	博士論文の提出 主査・副査の決定（研究科委員会）
	12月	博士論文の最終試験
	～2月下旬	公聴会
	3月	修了判定（研究科委員会）
	3月（修了式）	学位記交付